

〔出席委員〕 小谷次雄、松本典子、西田直美、吉田武章、富田充信、赤本てるみ、
松田裕一、岡野勝義、山下千之、長谷川暢宏

〔オブザーバー〕 牧野厚志（中部教育局学校教育係長）

（敬称略）

1 開会	
司会	（開会の宣言）
①開会挨拶	
会長	限られた時間ではあるが、十分な意見をいただくようよろしくお願いします
司会	（資料の確認）
2 事務局説明	
倉吉市教育振興基本計画（素案）について	
事務局	「倉吉市教育振興基本計画（素案）」の概要、教育理念、教育目標について説明。
3 協議	
会長	教育理念、教育目標、全体図、施策体系図等の全体的なことについて意見をいただきたい。
委員	幼児教育と家庭教育は、全体図では学校教育の枠の外にそれぞれで書かれているが、施策体系図では両方とも学校教育に入っている。どのようにリンクしていると考えればよいか。
事務局	その点についてはもう少し意見をいただきたいところである。素案では、学校教育の重点施策の5番目に（学校教育に関わる）家庭教育、6番目に幼児教育を位置づけている。明日の倉吉の教育を考える委員会の提言では、家庭教育が大事だということで家庭教育が最初に位置づけられている。家庭教育、幼児教育を別出しする、または学校教育の最初に置くということも考えられる。ただ全体図でわかりやすくするため、重要施策のローマ数字は打ち変える必要がある。
委員	たとえば子どもの健康・安全を守るための力をつけるために、家庭教育、そして小・中学校、社会教育ではこんな取り組みをしているというようなことがわかる書き方がよいのではないか。そうすれば、保護者が見た時に、こういう取り組みをしていくことが子どもを育てることになるとわかる。
委員	全体図の内容については後でもう一度詳細な記述があるので、全体図の文字は最低限にして、仕組みを分かりやすく書いた方がよい。
事務局	重点施策はローマ数字で表記しており、主要施策を「・」で表記している。全体図では主要施策を省き構造を分かりやすくしていくということによってよい。家庭教育については、学校教育と社会教育の両方で位置づけている。
委員	保護者が見た時わかりやすいように、学校教育に関わる家庭教育と社会教育に関わる家庭教育がどこに書いてあるかわかるとよい。
教育長	幼児教育と家庭教育をどこに位置づけるのかということと、例えば「豊かな心」「学力」「文化」などの項目について幼児教育、家庭教育、学校教育、社会教育のどこで育てていくのかということが一緒になって論議されている。整理する必要がある。
委員	今回の素案は学校教育と社会教育とに分けて位置づけられており、それぞれの項目の関連が書かれていることがわかる。しかし、育てたい資質・能力についてそれをどこで育てるのかということ的位置づける方がわかりやすいのではないか。社会教育の中に生涯学習が位置づいているが、生涯学習は幼児教育から学校教育、社会教育まで含むもっと広いものという意見もある。
教育長	生涯学習についての捉え方については、社会教育の中の生涯学習と考えている。教育委員会としては、法律に位置づけられている学校教育と社会教育という2本

	の柱で考えていきたい。生涯学習と社会教育は似て非なるものではないか。生涯学習は学習であり、教育はもっと意図的、組織的なものであると思う。自らの学びと教育は違うのではないかという考えもある。全体図については、今出ている2つの考えに基づき2つのものがあったてもよいと思う。
委員	全体図は、表す意図をもっとわかりやすくしていくとよい。家庭教育はずっと続くものであり生涯学習にも関わるので、幼児教育とは一つにならないと思う。関係を表す図としてもっと簡単に表記して欲しい。
委員	「Ⅲ倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成」とあるが倉吉だけでなく、日本という観点も入れた方がよいのではないか。
事務局	倉吉市の教育振興基本計画であるので、倉吉のよさを知ることから始まり、やはり「倉吉らしさ」ということにはこだわりたい。
委員	子どもは成長していくと倉吉だけでなく、世界がどんどん広がる。倉吉だけでなく日本ということも入った方がよいように思う。
教育長	当然日本を入れながらの話だと考えている。教育目標にある「郷土を愛し」という時には、倉吉だけでなく、鳥取県そして日本ということも意識している。また「他人や他地域を尊重」という時にも、倉吉だけでなくもっと広い地域を考えている。
会長	まず倉吉のことを考えるのだが、計画全体の中では日本、世界も入っていると考えるとよいのではないか。
中部教育局	ミクロを理解するためにはマクロを理解することが大切だということだと思う。
教育長	教育理念の説明の中の「社会に貢献できる人づくり」についての記述の中に、「地域、日本、世界の平和のために貢献できる人」を育てることが、倉吉の目指す人づくりだという内容を入れることも考えられる。検討していきたい。全体図は事務局にとって何をしたらよいかわかりやすくなっているが、とらわれずに考えていきたい。家庭教育の位置づけを検討していく必要がある。全体図の中では、家庭教育を幼児教育、学校教育、社会教育とつながっていくイメージで表すとよいのかと思う。この図は左から右へと成長していく過程を表し、それが次世代育成ということで地域に戻ってきていることを表している。
会長	幼児教育、家庭教育の番号が学校教育の中にある番号で表してあり、全体図ではつながりがわかりにくい。
教育長	ローマ数字はとってしまうとよいと思う。
委員	幼稚園は学校の仲間であり、幼児教育が学校教育の中にあるのはとてもよい。
教育長	保育園は学校には含まれないが、幼児教育ということで考えるとよいのではないか。国も幼保一元化に向けて動き出している。
委員	これだけ連携ということが言われているので、幼児教育というタイトルをとって内容を学校教育に入れるとよいのではないか。
教育長	家庭教育の位置づけについては、枠を二重にも三重にも重ねるなど工夫が必要か。全体図は、少し内容が分かりにくくはなるが、重点施策についての表記をとってしまうということではよい。
委員	構造的に見るために全体図は簡単でよい。
委員	誰に見てもらおうのかということを考えることが大切。専門家集団ではなく市民に見てもらおうとするなら簡単でよい。
教育長	全体図の重点施策の表記をとってしまうこととしたい。
委員	一般市民が見た時に、家庭教育が大事というイメージを伝えるためには、全体図で家庭教育がすべてにかかるようにした方がよい。また、PTA活動は社会教育となっているが、学校教育に入れた方がよい。生涯学習として何をするのか疑問なところもある。PTAということで社会教育となってしまうということなら、倉吉でははっきりと保護者会としたらよいではないか。学校教育の中に入る保護者会組織にしたらよい。

教育長	「Ⅳ地域と連携した開かれた学校づくりの推進」の内容としてPTA活動が入った方がよいということか。
事務局	PTA活動であれば生涯学習課が所管となるが、実態としてはPTA連合会の会合などで学校教育課も対応している。両方にまたがる。
委員	せっかくPTAの組織がありながら使えていないのが現状であり、変えていかなければならない。
会長	社会教育の中の重点施策としてPTA活動を項目としておこなうこともできるのではないか。明日の倉吉の教育を考える委員会の提言で、最初に家庭教育を持ってきたのは、家庭教育を中心に置いたからだ。
委員	子育てが人任せになっており、面倒なことに出たがらない保護者がいる。子どもを育てているという当事者としての自覚と責任を促すような文言を入れて欲しい。保護者の地域行事への参画を目指すような取り組みが欲しい。
会長	社会教育の重点施策の中に、PTA活動の項目を入れてはどうか。
委員	「Ⅳ地域と連携した開かれた学校づくりの推進」に、家庭を入れて「家庭・地域と連携した開かれた学校づくりの推進」としたらどうか。
教育長	そのようにしたい。
事務局	明日の倉吉の教育を考える委員会では、家庭、地域、学校を円で表し、その重なりが表現できた。どのように表すのか知恵が必要だ。
中部教育局	家庭の方から手を出して欲しいという図になるとよいと思う。
委員	できた図を親が見た時に、何でも学校や地域にしてもらえると捉えになってはいけない。親が学ぶ必要があるのだから。
事務局	教育基本法にある「保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」というような記述が入ればよいということか。
委員	今の保護者は書かないとわからないという人もある。
委員	公民館からのイベントの募集等でも、少々費用がかかってもバスで出掛けたり、一日預かってもらえたりするものに参加する傾向がある。保護者の手間のかかるPTA活動には参加してもらいにくい状況がある。
委員	親が必ず出るという前提ではなく、子どもだけ参加させるのも教育の一つであると思う。イベントによって子どもだけ参加するものと親も参加するものがあったもよい。家庭教育がどの時期でも必要であるということであれば、枠をとって通して必要なものという位置づけでもよいのではないか。
委員	親に子育ての責任、自覚を持って欲しい。やむを得えず助けが必要な時にはいろいろなサービスを使ってもらえばよいが、産んだら一人前の大人に育てていくという自覚を持って欲しい。地域でいろいろなことをやっていく後継者がなかなか育たない。忙しい子育てを終えた大人が、地域に貢献してもらうような方向性がよいのではないか。
会長	保護者の自覚と責任について内容に入れることとしたい。
会長	続いて学校教育の「重点施策Ⅰ学力向上の推進」について意見を伺いたい。
委員	小学校教科担任制の実施についての状況はどうか。
事務局	現在市内2校の6年生で実施している。上灘小が2年目、河北小1年目である。一番の目的は、一人一人の児童を複数の大人の目で見るということである。すぐにすべての教科の学力テストで成果が出ているという状況ではないが、学校での児童や教員の様子を聞くと、よい取り組みではないかと考えている。
中部教育局	学びの面と育ちの面を考えた時、思春期に入りいろいろな大人と接していくことは必要である。また中学校への移行もスムーズになるのではないかと思う。
事務局	音楽等では今までも専科の教員が指導していたことはある。国語は学級担任での指導、算数は少人数での指導となっている。道具等の準備の必要な理科では非常に有効であり、他にも社会、図工、家庭科等の4教科から5教科について試行している状況である。市の加配を一人配置している。

委員	家庭学習ができない環境の子どもがいる。小学校3年生くらいまでの繰り返しで身に付ける基礎・基本ということを大事にして、それをどこまでつなげていけるのかが大切である。学力が2こぶラクダの状態になっているのではないか。家庭へのバックアップが必要ではないか。
事務局	学校も、家庭学習の手引きを作ったり、毎日の家庭学習の状況を把握したりと様々な取り組みをしている。家庭以外の別の場所で学習している例もあるのではないか。
委員	児童クラブで学習している例がある。ただし、親が児童クラブ任せになり、自分の子どもの状態がわからないのではないかと心配している。学校でも家庭学習の手引きを作って配布しているが、倉吉市として作成し、全市的に活用するとよいのではないか。先日伯耆町が作成したのを見たが、非常に参考になるものであった。
教育長	「家庭と連携した学習習慣づくり」というような項目を入れ、家庭学習の手引きの作成等に取り組んでいくこととしたい。
会長	組織的な研究ではなく、サークル的な研究に助成していくような制度があってもよいのではないか。
委員	中学校卒業程度で身に付けておかなければならないことが身に付いていない人をフォローするような施策はないか。そういう人は会社で働きだしても積極的に仕事に向かえない状況がある。
会長	大学生でもそういう状況がある。実際の中学校の状況はどうか。
教育長	現実にはそういう問題はある。不登校の生徒で漢字が読めない、わり算ができないという状況があった。しかし人間関係ができるまでは、できないことを認めない。それを認めた時に、どこまで学年を下げて、どの学習内容に取り組むのかという次の手が打てる。そういう時でも市が作成しているステップ9が活用できる。
委員	中学校卒業試験というようなものがあってもよいのではないか。学力をつけずに社会に出ると本人が苦勞する。
教育長	そうならないようにステップ9等を使って学力をつけるよう努力しているが、現実にはうまくいっていない状況もある。
中部教育局	教室に入れない子をどうするかが問題となる。学習に対するモチベーションを保つためには人間関係が大切となる。それができないと「わからない」と言えない。学力がついていないからと卒業させないこととすると、生徒にさらに苦しみを与えることとなる。そうしないために卒業させているという現実がある。
委員	中学校卒業後どこにも所属していない子がやる気になった時、どう支援していくかが課題となっている。場所と指導者が必要である。漢字が読めず、運転免許を取れないという人もある。また小学校3年生ぐらいの学習から始めないといけない例もある。
教育長	学び直しの場合ということか。
事務局	国も再チャレンジということに取り組んでいるが、市としてどういう場で取り組むかとなると難しい状況がある。
委員	中学校3年生になってからでは大変。各学年でつけていくべき力をきちんとつけていくことが大前提である。学習習慣や学習意欲、また成功体験等基盤となるものが複雑に絡み合っており、これをしたら即こうなるというようなものではない。
委員	社会教育や生涯学習の分野に入れるべきことではないか。
会長	主要施策の「細やかな指導を行う体制づくり」の中に入ることはないか。
事務局	中学校を卒業して高校に入学していない子をどうするのが課題となっている。ちょうど何の支援もない隙間の年代になっている。総合教育センターというようなものが中部の4町と一緒にできないか考えている。

教育長	社会に出た時何が必要なのかを自覚していくためには職場体験は非常によい。
会長	重点施策Ⅱについて意見を伺いたい。
教育長	先日の博物館協議会でも博物館を必ず利用して欲しいという要望があった。
委員	会社の教育も社会教育の一つである。会社も社員のできることを探し本人に自信を付けさせていくことも必要で、それが第一である。それでもうまいかない時に出身中学に相談に行くこともよいと思う。そういうことも含めて相談活動の充実となるのではないかな。
会長	キャリア教育とはどういうものか。
事務局	キャリア教育とは仕事調べから始まり、高校の教育課程や取得できる資格についても学んでいる。職業教育とは少し違い、大人になってどんな気持ちで働くのかということにつながっていくものである。
委員	情報教育や体験活動もキャリア教育とつながっている。将来の働くということについてイメージを作っていくことが必要である。修学旅行でも離島での漁業体験等をしている例もある。今の子どもに欠けているもの、そして必要なものは何かを見極め、修学旅行等の内容も変えていく時期ではないか。
会長	5年先を見て、学校行事等を見直していくこともあってもよいのではないかな。
教育長	新教育課程では学習する内容も増え、教科書も厚くなる。行事も見直す必要があり、体験活動も減っていく。それをどこでやるかというと土曜日、日曜日しかない。
委員	学校でできないとなると、地域社会で協力者を増やし、ネットワークをつくる必要があるとなってくる。
事務局	地域の人々が土曜日等に子どもを集め、学習したり体験活動をしたりということは地域貢献活動の一つとして考えられる。
委員	中学生、高校生の体験活動や実習が職場で行われる。しかし中学生本人からの連絡しかなく、教員が何も説明に来なかったり、あいさつもできない実習生がいたりする。職場体験や実習をするなら、これは押さえておかなくてはならないということをしちんとすべきだ。
中部教育局	中学生は修学旅行を含め、体験学習に取り組んでいるが、新学習指導要領により減らされるのではないかと危惧している。
委員	遠くに行かなくても近くでできることで力をつけていくことも必要ではないか。
事務局	総合学習の調査活動で市役所の各課でもお世話になるが、お客さんとして扱うのではなく、ダメなことがあればその場で叱っていただくように頼んでいる。
会長	公民館で倉吉養護学校の生徒が職場体験活動をしたが、学校も綿密に計画していた。
教育長	具体的施策の中に宿泊体験を位置づけているが、2泊3日の船上山宿泊訓練というようなものではなく、セカンドスクールのようなもっと長い体験活動を考えている。その活動をとおして自立できることをめざしたい。
会長	5年後の姿がわかる記述はできないか。「～をめざした～」というような書き方がよいのではないかな。
事務局	重点施策の下に書いた説明に組み入れたいと考えている。数値目標等を入れることも検討したが、なかなか入り切らない。
会長	具体的施策の中で内容がわからないものがあるので、わかるようにして欲しい。主要施策の「地域の人々が学校運営に参画する体制づくりの推進」とはどんなことか。
事務局	今の学校評議員制度をさらに発展させて、学校が地域の要望を受けるなど、地域の方に学校運営に参画してもらうことを考えている。
教育長	全体図の下に地域の次世代育成ということを挙げているが、学校が地域の人に助けてもらうだけでなく、地域の人々が次世代育成のために学校ではこんなことをして欲しいという要望を出し、また実際に協力してもらうということを考えてい

	る。子ども会のリーダー育成に関わったり、土曜日の活動を仕組んだりできないだろうか。
委員	自分の地区では月に1回地域の方が子どもの参加するような活動を仕組んでおられる。しかし、最初は参加者が多かったが、だんだん減りつつある。それは、スポ少の活動が忙しいということと、興味関心が固定化する傾向があるということが考えられる。また、活動に参加する子はどんどん参加するが、そうでない子は全然参加しないという2極化の傾向ができています。場を作ればそれでよいとは限らない。そこから工夫する手立てが必要だが、なかなか難しい。
委員	児童の給食の食べ方はよくない。給食だけでなく掃除や家庭科など学校の教員の手がかかるところを地域の人が入り、助けることはできると思う。学校と関係ができるし、地域の人にも知恵を生かせ、また行こうと思うのではないかな。
中部教育局	学校公開の時でも1年生の教室に2人のボランティアが入っておられた。初めは戸惑うが、3年目ぐらいになると教員もボランティアもお互いが慣れて、活発に利用されているということだった。
教育長	南部町でも地域が活発に支援してる。教育委員会でも視察に行く予定である。学校支援地域本部事業は中学校区が単位だが、倉吉では小学校区単位での地域支援を考えていきたい。
会長	毎週火曜日の午後、地域が「学校に行こう」という取り組みをしている。児童も先生も慣れてきて、活発になりつつある。
教育長	菜の花をキーワードに地域と学校とがつながりつつあると思う。各地域でもいろいろと取り組んでおられると思うが、さらに発展させていきたい。学校はサポートしてもらいつつ、地域にも貢献していきたい。
委員	食育の推進ということが言われ給食が中心となっているが、弁当の日をつくったらどうか。今は給食が当たり前になっているが、弁当の日だけは保護者が一生懸命子どものために弁当を作るということを学校が仕掛けることで、家庭との連携も図れる。ただし、一人親家庭等の状況もあり、学級として思いやりの精神を十分育て、差別のない学級づくりをしておくことが必要である。また家庭同士で子どもの弁当を作り合うなどしてもよいと思う。
教育長	主要施策に入れるかどうかは別として方法としてはおもしろいと思う。
委員	教育理念を説明した文章の中に学問等に取り組むことを「生きがいとして」という文があるが、「生きがいの一つとして」という表現の方がよい。
教育長	表現を修正する。
4 その他	
司会	連絡：追加の意見の送付について 今後の日程…今回の意見、また他の審議会等の意見を踏まえ、事務局で原案を作成し、パブリックコメントを実施。その前には各委員にも原案を送付し意見をいただく。パブリックコメント後、再度修正した原案について協議を行う第4回の学校教育審議会を2月開催予定。
5 閉会	
教育長	慎重審議ありがたい。議論を積み重ねることは時間がかかるが、姿形が出来てきた。今後ともご協力をお願いしたい。